

見晴台公園の利活用に関する町民意見書

平成 24 年 3 月 19 日



見晴台公園利活用に関する検討会議

一般社団法人 大雪・富良野ルート サポートセンター
(株式会社 KITABA)

目次

はじめに.....	1
1．検討会議の目的と成果の活かし方.....	2
2．検討スケジュール、事業の運営体制.....	4
3．見晴台公園利活用に関する検討会議のまとめ.....	6
1) 上富良野町の観光を考えた見晴台公園の位置づけ.....	6
2) 具体的な活用のアイデアや改善点、求められる機能.....	7
3) 観光振興計画への反映内容や検討すべき項目.....	9
4．利活用案における4つの重要なポイント.....	10
5．今後の進め方について.....	11
6．各グループ意見のまとめ.....	12

「見晴台公園利活用に関する検討会議」に参加した上富良野町民 20 名は、年齢、性別、立場の異なるもの同士、少人数のグループに分かれながら 3 日間にわたる議論をつうじ、見晴台公園の利活用について、以下のとおり町民意見としてまとめました。

はじめに

「見晴台公園利活用に関する検討会議」に参加した20名のメンバーは以下の通りです。

	第1回	第2回	第3回	延人数(実人数)
一般町民	9名	8名	11名	18名(15名)
かみふらの十勝岳観光協会	5名	4名	4名	13名(5名)
合 計	14名	12名	15名	31名(20名)

「見晴台公園利活用に関する検討会議」では、平成24年1月31日（18時～20時30分）、平成24年2月15日（18時～20時）、平成24年2月27日（18時～20時）の3日間にわたり、以下の流れで議論を行いました。

1日目は、検討会議の趣旨や成果の活かし方について共有し、これまでなされてきた議論の確認を行いました。その後、「上富良野町の観光を考えた見晴台公園の位置づけ」について、まちづくり、観光、町民の生活の視点に立ちながら議論を行いました。

2日目は、1日目の議論のまとめについて振り返りを行いました。その後、公園の位置づけや大切にすべきポイントを見据えながら、現状の公園の課題を図面上に図示しながら議論を行い、望ましい見晴台公園のゾーニングを参加者同士で共有しました。

3日目は、それまでの2日間の議論の成果を町民意見としてまとめました。



1. 検討会議の目的と成果の活かし方

上富良野町では、今後のまちづくりや観光振興の視点も踏まえて「見晴台公園」の利活用検討を行うこととなり、平成 23 年 10 月から調査業務が事業化されて取組まれています。

利活用検討の中では、広く町民の意見を取り入れることを目的に、議論の場として「見晴台公園利活用に関する検討会議」を設けて、ワークショップ形式で意見交換しながら一緒に検討していくことが必要と位置づけられ、開催されました。

検討会議の目的と成果の活かし方 - 1

ワークショップ開催の目的

- より良い利活用を考えるにあたり、「大切な視点」と「町民の方々と一緒に考える」ことが大事になります。

まちづくり

観光

町民の生活

↓ 大切な視点を踏まえて

町民の方々から広く意見をもらいながら、
一緒に検討していくことが必要

ワークショップによる検討

なお、「見晴台公園利活用に関する検討会議」で検討された内容は、町民意見書（本書）として取りまとめて町へ提出するほか、平成24年度策定予定の観光振興計画へ一部反映させます。

検討会議の目的と成果の活かし方-2

ワークショップの位置づけと、成果の活かし方

- ご意見は、町民意見書として町に提出・利活用計画に活かし、観光振興計画にも一部反映させます。

- 第1回：見晴台公園の位置づけ
- 第2回：課題や改善点のゾーニング
- 第3回：利活用案のまとめ、想いイメージの確認

ワーク
ショップ

町民意見書の提出

- みなさんのご意見・想いを集めた町民意見書として提出します。

観光振興計画

- 議会や有識者の参加もあるため、全てではないですが反映させる仕組みをとります。

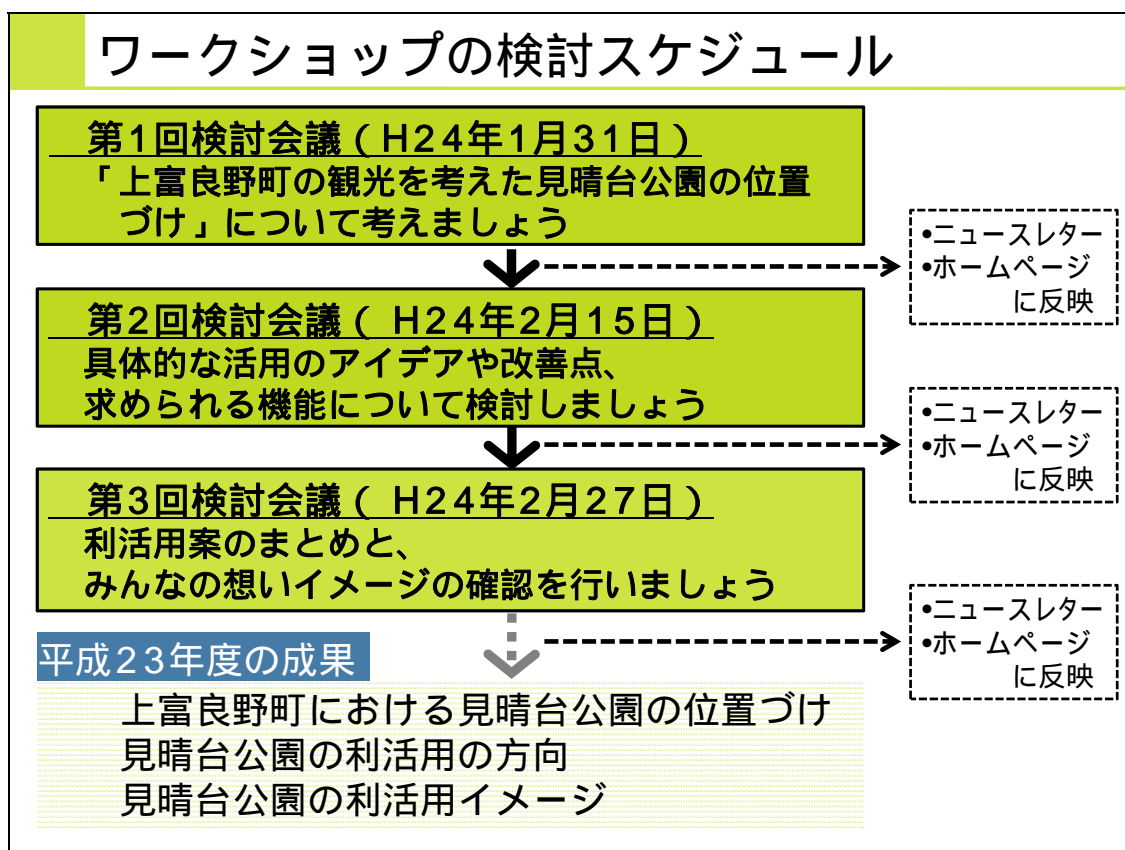
観光振興計画は平成24年度策定予定です。

2. 検討スケジュール、事業の運営体制

検討会議は以下の日程で開催し、利活用について検討を行いました。全3回の開催においては、1回目に「上富良野町の観光を考えた位置づけ」を検討しました。2日目には「具体的な活用のアイデアや改善点、求められる機能」について検討しました。3日目は「利活用案のまとめとみんなの想いイメージの確認」を行いました。

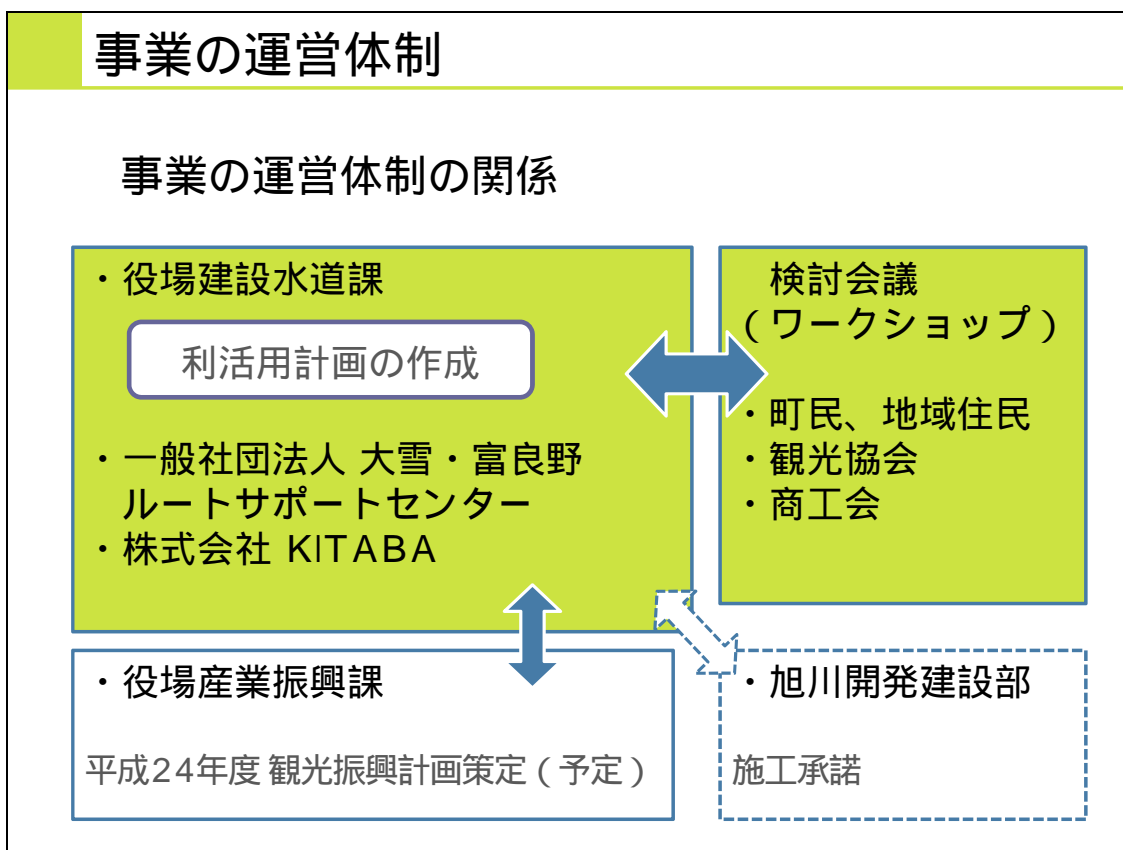
開催状況や議論のまとめは、検討会議開催後にニュースレターとしてまとめ、上富良野町のホームページにも掲載し、周知することとしました。

平成23年度の成果は、見晴台公園の位置づけ、利活用の方向、利活用イメージとし、それに向かって3日間の検討を行いました。



事業の運営体制は、以下のとおりとなっています。

運営には、私たち町民の他に様々な関係機関が一緒になって関わり、検討を行いました。そのうち、検討会議での議論は町民のみで行い、私たちの考えや想いについて意見を出し合いました。

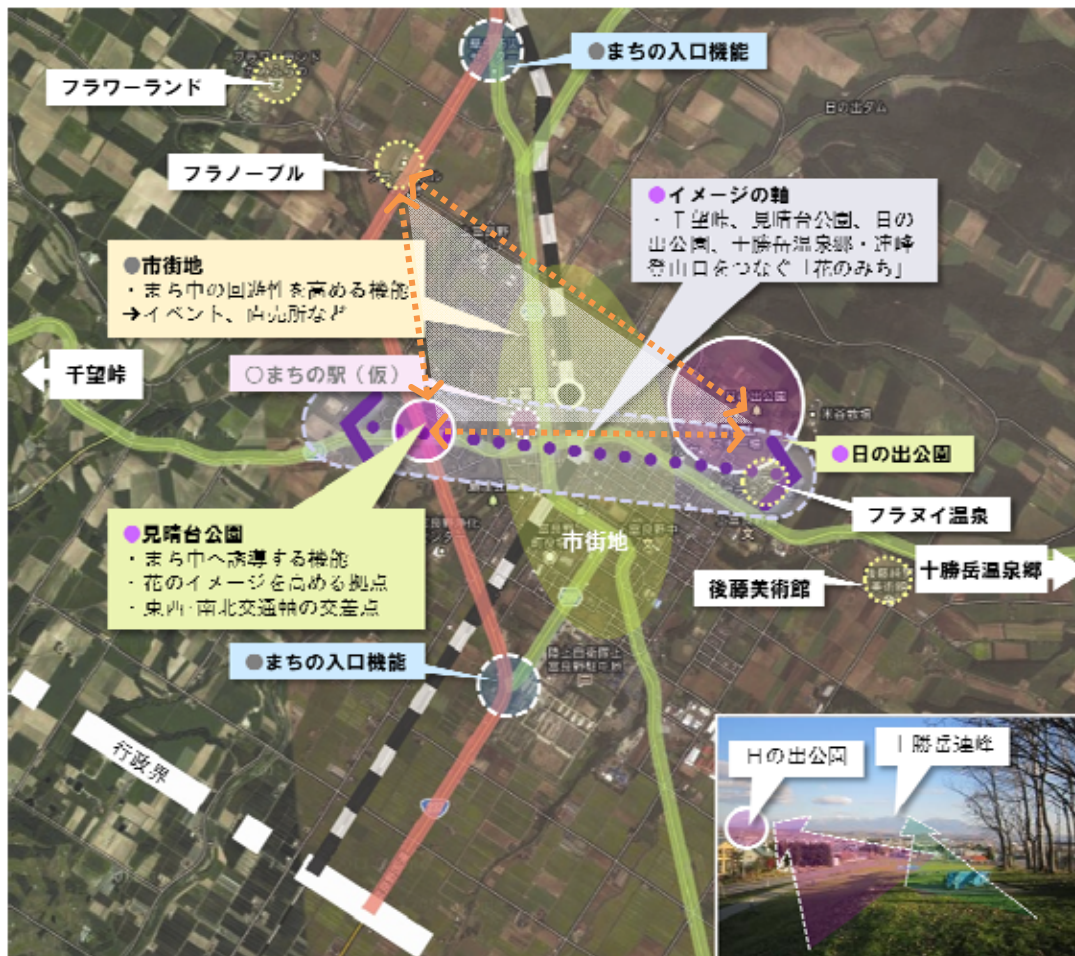


3 . 見晴台公園利活用に関する検討会議のまとめ

1) 上富良野町の観光を考えた見晴台公園の位置づけ

町全体を含めた見晴台公園の位置づけにおける大切にすべきポイントは、大きく以下の3つにまとめられました。情報発信の拠点、まちなかへの入口、地域に配慮した憩いの場の3つが柱となるとまとめられますが、公園を中心とした三角形の回遊ルートも考えられると思われれます。

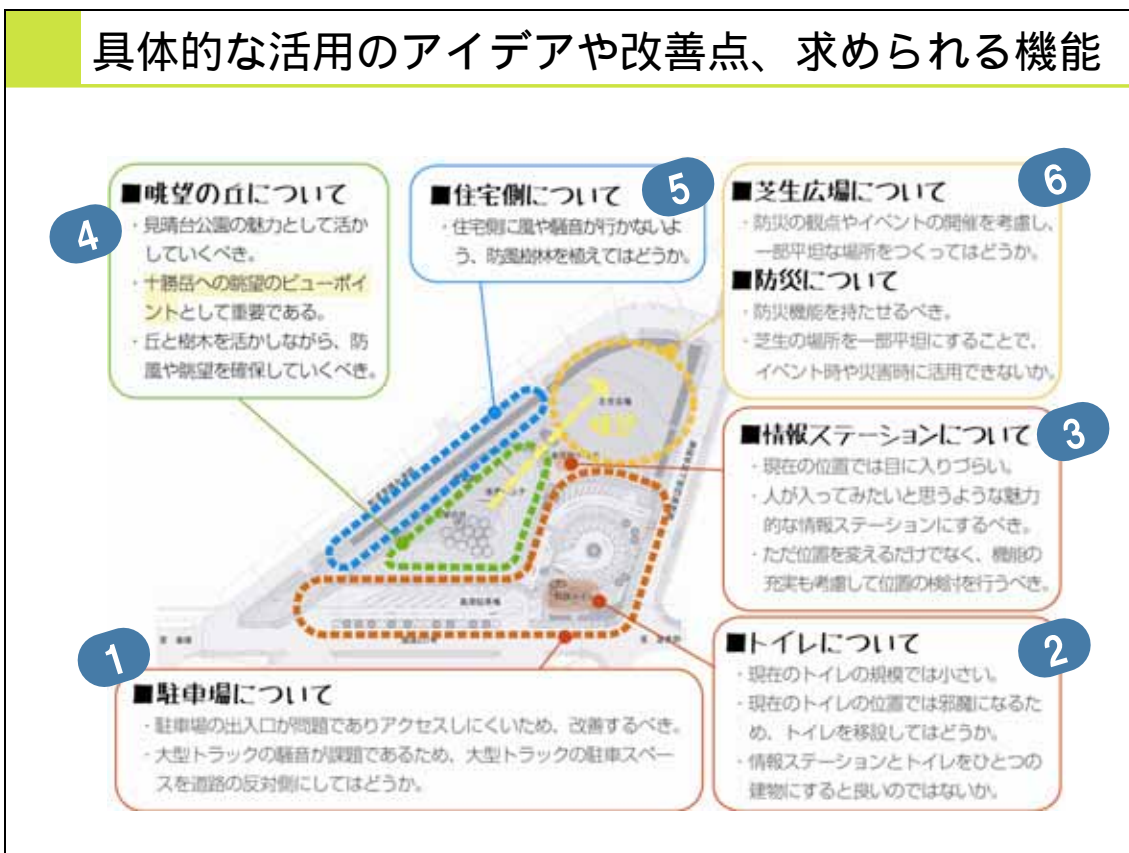
<p>大切にすべきポイント 全体に共通している内容</p>	<p>見晴台公園は…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光の重要ポイントで情報発信の拠点 ・ まちなかへの入り口として拠点になりえる ・ 観光の一方で、地域に配慮した憩いの場としても機能しうる
-----------------------------------	--



2) 具体的な活用のアイデアや改善点、求められる機能

公園の課題や改善点は大きく6つの項目についてまとめられ、図面上にゾーニングを行うと4つの場所に関するポイントとなって浮かび上がりました。4つの場所はそれぞれ、公園駐車場付近、芝生広場、丘、公園住宅側の敷地となりました。一方、求められる機能については、観光振興計画で検討すべきとの意見もありました。

次頁には、6つの項目についての内容をまとめています。



駐車場について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場の出入口が問題であり、アクセスしにくいいため、改善すべき。 ・ 大型トラックの騒音が課題であるため、大型トラックの駐車スペースを道路の反対側にしてはどうか
トイレについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在のトイレの規模では小さい。 ・ 現在のトイレの位置では邪魔になることもあるため、トイレを移設してはどうか。 ・ 情報ステーションとトイレをひとつの建物にすると良いのではないか。
情報ステーションについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の位置では目に入りづらい。 ・ 人が入ってみたいと思うような魅力的な情報ステーションにすべき。 ・ ただ位置を変えるだけでなく、機能の充実も考慮して位置の検討を行うべき。
眺望の丘について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見晴台公園の魅力として活かしていくべき。 ・ 十勝岳連峰への眺望のビューポイントとして重要である。 ・ 丘と樹木を活かしながら、防風や眺望を確保していくべき。
防風・防音について (住宅側)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅側に樹木を植えて、防風・防音効果に配慮してはどうか。
芝生広場について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災の観点やイベントの開催を考慮し、一部平坦な場所をつくってはどうか。
防災について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災機能を持たせるべき。 ・ 芝生の場所を一部平坦にすることで、イベント時や災害時に活用できないか。

また、以下のように観光振興計画で検討すべき事項も把握できました。

**観光振興計画で、見晴台公園の位置づけを
しっかりとつくることが大前提である**

- ・ 見晴台公園はまちの出入口として重要な場所である。
- ・ 重要な場所であるため、見晴台公園を魅力的な場所にし、立ち寄ってもらえるようにする必要がある。

3) 観光振興計画への反映内容や検討すべき項目

位置づけを含めた見晴台公園の利活用を考えるうえで、大切にすべき内容を把握することができました。合わせて「観光振興計画の策定過程で検討すべき事項」や「観光振興計画へ反映させるべき内容」が浮かび上がり、その内容は以下の通りにまとめられました。いずれにしても、公園利用の他に観光に関わる活用の視点があるため、観光振興計画の中で、位置づけ等について検討することが必要ではないでしょうか。

観光振興計画への反映内容や検討すべき項目

観光振興計画 で検討すべき 項目

- 開発局と協議しながら進めること
- 利活用のイメージや機能面の検討を行うこと
- 公園機能とするか、観光拠点とするか、整理した方が良いのではないか

観光振興計画 へ反映させる べき内容

- まちの特産品を一同に集める場所の検討
- 見晴台公園を入り口とした際、まちなかへ観光客を呼び込む仕掛けが必要
- 観光資源のネットワークを考えながら公園の利活用を考えていく必要がある

4 . 利活用案における 4 つの重要なポイント

3 日間の議論を通じた検討会議参加者の想い（みんなの想い）をまとめたイメージプランの確認を行いながら、見晴台公園の利活用を考えるうえで、4 つの重要なポイントを導き出しました。

ここまでの検討会議のまとめと重なる部分がありますが、重要なポイントであるため、以下にあらためて記載します。

眺望の丘について

- 丘は見晴台公園の魅力であるため、活かしていくべきである

情報ステーションについて

- 見晴台公園に停まり、情報ステーションで情報を得て、上富良野の他の観光地や中心市街地に来てほしい。この機能は非常に重要である。
- 情報ステーションは、見晴台公園の魅力を生かしながら、国道から見えるところに配置するべきである。
- 情報ステーションとトイレはできるだけ一体にした方がよい。
- 情報ステーションは、景観や眺望を阻害しないように配慮する必要がある。

周辺住民への配慮について

- 公園の周辺に住んでいる住民に配慮していかなければならない。
- 防音・防風を考えて、丘や樹木はできるだけ残したい。

観光振興計画での見晴台公園の位置づけについて

- 観光振興計画の中で、見晴台公園を位置付けた上で、まち全体を鑑み、どのような情報発信をここすべきなのか、どんな機能を盛り込むのかを検討するべきである。
- 見晴台公園の位置付けは、「住民のための公園」であり、「上富良野への来訪者が立ち寄り、情報をつかんで観光地や中心市街地へ回遊する、観光的に非常に重要な場所」でもある。

5 . 今後の進め方について

全3回の検討会議では、町全体も考えた公園の位置づけから、現状の公園内の改善点や観光振興計画の場で検討すべきことなど様々な意見が出されました。多様な意見がありましたが、町民の意見を受けて、上富良野町には大きく以下の2点を大事にしながら本事業を進めていってほしいと考えます。

以下に、その内容を記載致します。

「短期的にできること」と「中長期的な検討が必要なこと」に区別しながら進めていただきたい

- これまでの検討のまとめからは、“じっくりと時間とかけて検討しなければならないこと”と“場合によっては早めの解決に取り掛かること”が出されたと考えます。
- 町だけでは取り組めない課題もあるため、北海道開発局とも確認・調整をしながら進めてください。
- 私たち町民の声が届いて、少しでもかたちとなっていくことにより、検討会議の成果が実感できるものと考えます。

観光振興計画では見晴台公園の丘を活かし、利活用や必要な機能等に関して検討していただきたい

- 町民意見の中では、前頁でまとめられたように4つの重要なポイントがあると考えます。
- 平成24年度に控えた「観光振興計画」の策定過程においては、4つのポイントに配慮していただき、中でも、“公園の丘は魅力として活かしながら、利活用や必要な機能の検討”を進めてほしいと考えます。

この2点を含め、検討会議で出された様々な内容については、上富良野町に受け止めていただき、事業の進め方の検討材料にしていきだきたいと思えます。

また、今回の検討会議のように取り組みに関しては、町民と情報を共有しながら進めてもらいとも思えます。

本事業が前向きに進んでいくことを期待致します。

6. 各グループ意見のまとめ

見晴台公園の利活用について、各グループで3日間に渡り議論した内容は、以下のように整理しました。

A グループの意見のまとめ

1 日目

まちの観光物産をPRする場所がない。

観光上の位置づけとしては、フラワーランド、日の出公園と結んだ観光トライアングル(周遊)の拠点になるのではないか。

花のイメージを強化してはどうか。

防災の観点も取り入れて、地域の生活面への配慮を考えていかなければならない。

2 日目

風や音について

公園からの風や車のアイドリング音の解決が重要である。

眺望について

十勝岳への眺望は素晴らしく、地域の自慢でもある。

駐車場・アクセスについて

大型車専用駐車場の移設・規制などの改善策が必要。

国道からは右折も町側からも公園へ進入しづらい。

情報ステーションについて

試食コーナーなど立ち寄り機能を設けて、まちなかに引き込む役目があっても良い。

トイレについて

トイレと案内所が併設されているものが使いやすく、敷地の使い方としても効率が良いのではないか。

3 日目

情報ステーションの配置について

情報ステーションが国道から見えるようにすることが重要である。情報ステーションの配置を検討する際は、丘を最低限削ることも含めて検討すべきである。

防風・防音について

防風・防音の対策は重要であるため、丘の魅力を活かして、丘をあまり削らないようにすべきである。

風の影響がどのくらいあるのか、具体的なデータを踏まえた上での対策が必要である。

防災の観点から

防災の観点からも、状況が見渡せるようにすることが重要である。

B グループの意見のまとめ

1 日目

観光客や運営側にとっても使いづらい場所になっている。
地域の人にとっては車のアイドリング音、風の強さが課題となっている。地域の人への思いはすくい上げて。
観光振興上の町の位置づけをはっきりとさせた方が良い。
深山峠、JR 上富良野駅、見晴台公園に観光案内所があるが、案内所毎の売りや性格を明確にする必要がある

2 日目

情報ステーションについて

建物が人を受け入れる仕様ではなく、魅力がない。
観光に力を入れていくのであれば、人を呼び込むためにも案内や物産、飲食の機能を充実させ、情報ステーションの機能性を高める必要がある。
情報ステーションの位置が国道側からだと見えないため、山を最小限切り、情報ステーションを国道側に移動させる必要がある。

駐車場へのアクセスについて

国道側、道道側の両方向から入れる出入口にしてほしい。

防災の観点について

通常はイベントで使用でき、災害時には駐車場などにも使用できる平らな広場があると良い。

3 日目

防風林について

今の状態のままが一番いい。丘は削らない方が良い。防風林としての樹木を新たに植えなくても良いのではないかと。眺望を阻害するかもしれない。

情報ステーションの位置について

情報ステーションの配置を検討する際は、風が強いことに十分配慮すべきである。

情報ステーションを設置するのであれば国道側に見えるように配置した方がいいのではないかと。

情報ステーションにはどのような機能が必要か、どのような情報を発信するかが重要である。

サインについて

公園に入る心の準備として、大きめのサインが必要ではないかと。

C グループの意見のまとめ

1 日目

観光面では、まちなかへ人を呼ぶための導入部として重要な拠点である。観光客に寄ってもらう拠点としては、まちなかの情報を発信する機能などの改善や充実が必要である。

見晴台公園も含め、点在している観光資源をつなぐネットワークが必要である。丘の上の木がシンボルとなっており、これを活かして利用できるようにした方が良い。

子どもたちが遊ぶ姿もあり、地域住民の憩いの場としても重要である。

2 日目

丘の展望で誘引させることについて

ドライバー等が車から降りて眺めたくなる場所にすべき。

散策・遊びのみどりの丘（みどりを活かした魅力空間）

丘や樹木は防風効果もあり、削る必要はない。樹木も残して散策・遊びの空間にしてほしい。

わかりやすい、使いやすい駐車場について

国道から入りやすい動線に変えた方が良い。

駐車場の位置がわかりにくい。道路側に移動すると良い。

トイレ&情報ステーションはまとめて使いやすく

駐車場から近くて見えやすい場所にあると良い。

遊び・イベントの芝空間について

駐車場近くに平場を設けるとイベント等に使いやすい。

子どもが安全に遊べるような対策が必要である。

3 日目

見晴台公園に立ち寄ってもらうために

見晴台公園の魅力を高めて、立ち寄ってもらうことが重要である。そのために、国道の数キロ前からサインをつけたり、ドライバーから見て目立つように丘の上に展望台をつくってはどうか。

見晴台公園の位置付けについて

まち全体の観光振興計画の中で見晴台公園を位置付けないことには、情報ステーションの機能や、どのぐらいの規模になるのか、どのような位置がいいのかが判断できないのではないかと。

見晴台公園だけでなく、まち全体の観光や動線も含めて検討をするべきである。

時間をかけてゆっくり検討するべきである。

D グループの意見のまとめ

1 日目

物販や広告に制限がある。

情報発信、フットパス等の拠点になるのではないか。

散歩、休憩ができる憩いの場のため、一部平坦な場所が必要ではないか。

国道側の土地を持っている開発局とも協議しながら、時間をかけて進めていく必要がある。

2 日目

2 日目はグループなし

3 日目

駐車場について

駐車場は道路の反対側のものも含めて検討すべきである。見晴台公園側は観光バスと一般車用、国道をはさんで反対側はトラック用など、駐車場のすみわけをしてはどうか。

情報ステーションについて

まちに人を呼び込むために、アンテナショップ、観光案内、観光協会事務所の機能があると良い。

情報ステーションのように建物を建てる際には、景観に配慮していかなければならない。

住環境への配慮について

見晴台公園は住民にとってのいこいの広場という位置づけもあるため、住環境に配慮した整備とするべきである。

